

EPA介護福祉士候補者 受け入れ事例報告

医療法人米津会
米津老人保健施設（愛知県）

当法人の紹介

事業所はすべて愛知県西尾市内

介護老人保健施設：入所100床（短期は空床利用） 通所40名

特定施設入居者生活介護：40床

通所介護：30名

認知症対応型共同生活介護：9名定員が2事業所

居宅介護支援：2事業所

地域包括支援センター：1事業所

診療所：1か所



米津老人保健施設

平成10年3月開設
併設医療機関のない老人保健施設
在宅強化型
平成30年5月～在宅療養在宅支援機能
加算Ⅱを取得
認知症専門棟あり



EPA介護福祉士候補者受け入れ実績と予定

- ・平成26年12月：インドネシア人介護福祉士候補者2名
- ・平成27年12月：インドネシア人介護福祉士候補者2名
- ・平成29年12月：インドネシア人介護福祉士候補者2名
- ・平成30年8月：ベトナム人介護福祉士候補者2名
- ・平成30年12月：インドネシア人介護福祉士候補者2名

- ・平成30年3月：平成26年入国インドネシア人介護福祉士候補者
介護福祉士試験合格者1名
介護福祉士候補者として滞在延長者1名

EPA介護福祉士候補者の受け入れ目的

- ・人材確保が難しく、その手助けとして候補者の受け入れを考えた
- ・出身国で看護系の学校を卒業し、優秀だと聞いていた
- ・真摯に働く姿は、私たち日本人の刺激になるだろう
- ・将来は外国人と一緒に働く時代が来る

EPA介護福祉士候補者の受け入れ準備

- ・ インドネシア人候補者の研修センターが愛知県内にあったので、
入職前に施設見学を行った
食事会を入職前に開き、職員との交流を実施
研修センター主催の説明会、研修会は必ず参加
半年の研修期間を振り返ると、月に1回程度は会う機会をつくった
- 少しでも就労前の不安を解消する
施設のこと、職員のことを知ってもらう機会をつくる

EPA介護福祉士候補者の受け入れ準備

- ・施設職員に対して
職員研修として、EPA介護福祉士候補者受け入れについて説明
(受け入れ目的、制度、インドネシアについて、宗教について等)
- ・ご利用者、ご家族に対して
文書で受け入れを行う事を説明

○事前説明で混乱は特になかった。

参考：今年度はご家族と交流場面で、EPA介護福祉士にも参加してもらい、ご家族に少しでも理解を深めてもらう機会を作った。

EPA介護福祉士候補者の受け入れ準備

- ・住居の準備

3DK、2LDKのアパートを2人で使用してもらう

地域にもよると思うが、アパートを借りることが困難になってきている。

=外国人の入居はお断りの物件が多い。

- 家財道具について

職員から募集を募りました。写真を撮ってもらい、使用できるかどうかを確認しました。一部、ご家族からも譲ってもらったものもあります。

何年も続けていると、もらえるものが少なくなります。

アパートの写真



8月にEPA介護福祉士候補のトゥーさん、ホンさんが西尾に引っ越してきます！

そこで、職員の皆様へ ご協力をお願いします。

自宅で、今後使用予定のない家電や日用品があったら、ぜひ譲っていただけませんか？

二人の新居に使わせてもらいたいと思います。

対象物は別紙リストをご覧ください。（大型家具等は、希望があれば取りに伺います）

譲って頂ける方は、まずは総務までご連絡ください。

譲って頂きたい場合、こちらからご連絡します。連絡後、持ってきていただく流れになります。

ご協力よろしくお願い致します。



皆様のご協力をお待ちしています！

※破損している物は遠慮いたします。汚れ具合によっては、お断りする場合があります。

(医)米津会総務

EPA介護福祉士候補者の受け入れ時

- ・生活面のサポート：主に法人総務がサポート

水道光熱費は節約。暖房、冷房への依存度が高いと思います。

ゴミ出しルール

近隣住民へのご挨拶

市役所への転入

銀行口座開設 印鑑はプレゼント

健康診断 受診が必要な時は看護部長が付き添う

生活圏の紹介（駅、スーパー等）

○年に1回入国管理局で滞在手続きを行います。外国人が増えているので、待ち時間が長くなっています。月曜、金曜以外の午前中早い時間がいいと思います。

EPA介護福祉士候補者の受け入れ時

- ・勉強のサポート（総務、看護介護部担当）

就労後約1年：就業時間中に毎回2時間の勉強時間

その内、2回は日本語講師に来てもらい一緒に学習

学習内容：JICWELSのテキストを使用。テストの範囲に沿って学習を進める

1年目は、とにかく日本語の習得に重点を置きます。

就労後1年以降：一週間に3回、2時間ずつ就労時間内に勉強時間を確保。

週に1回2時間、国家試験対策の講師に来所してもらい

一緒に学習。

EPA介護福祉士候補者の受け入れ時

日本語講師は、元国語教員。

介護福祉士国家試験対策講師は、近隣大学の非常勤講師。

- 課題：日本語講師は候補者2名ずつで授業を行ってもらっているが、日本語能力に差があると、できない候補者の方に指導が偏ってしまう。
日本語能力に課題のある候補者には、補習を職員が行うことで対処している。
→候補者に不公平感が生まれることが悩み。
「休み」は「休み」という考えがあるので、補習として施設に来てもらおうとしても無理。

日本人の職員はわかっているけど、業務中に抜けるのは負担もある。



勉強の様子
←日本語の勉強

↓ 国家試験用の勉強



EPA介護福祉士候補者の受け入れ時

- ・業務面のサポート（看護介護部 主に受け入れフロア）
受け入れフロア職員みんなで仕事は教える
チューターの配置（日本人も同じ）
チューターは、EPAの受け入れ担当者が中心で行ってきた
マニュアルなどはふりがな作成
特別視はしないが、言葉の壁があるので、配慮が必要
職員同士の交流（フロアにおまかせ）
夜勤は、配属部署、本人の日本語業務習得度による 早くて1年半後
- 仕事は総じて真面目。仕事の習得も早い。
- ご利用者、ご家族は、最初から違和感なく受け入れてくださいました。
職員も候補者の姿を見て、刺激になっているようです。

仕事の様子



EPA介護福祉士候補者の受け入れ時

- ・ 宗教上の配慮

お祈りのこと：お祈りチラシ お祈りの時間は、業務を抜けます。ジルバブ着用をします。

ラマダンの時期は入浴業務は外れるなどの配慮。

食事は自炊 職員食は対応していません。

- 受け入れ時の注意点

仕事を教えるとき、「大丈夫？」と聞くと「大丈夫」という返事。

教える側が「わかっているはず」と思いこまない。

仕事の説明は自分の言葉で説明してもらう、やって見せてもらうが大事。

施設で行う、研修、勉強会の資料、説明の速度にはついていけないから、配慮した方がいいのですが・・・。

EPA介護福祉士候補者の受け入れ後

- ・ 休暇について

就労一年を経過したら、年に1回、2週間を上限に帰国を認めています。
中にはもう少し期間を延ばしたいという候補者もあるが、日本人も2週間の連続休暇取得が難しいので、理解してもらう。
その他は日本人と同じ。

- ・ 研修について（日本語以外）

JICWELS主催の研修は必ず参加。

介護技術講習は3年目に近隣の専門学校で受講。

日本語能力がある程度身につけば、外部研修に参加。

EPA介護福祉士候補者の受け入れ後

- ・健康面への配慮

医療機関への受診は、予め看護師等に相談してもらう体制にする。

医療機関へ受診しても、症状を上手く伝えることができない等あり。

できれば、受診に同行し、病状を把握し就業場でも適切な対応が必要。

病気、けがは大きな不安。

入職後早期に「Tスポット検査」を実施。

ストレス、精神不安もあるので、言葉かけ、話す機会を。

わたしたちが感じる EPA介護福祉士候補者の受け入れ課題

- ・ 候補者間での相性

ルームシェアをしているので、相性は大事。国は一緒でも、そもそも他人。法人に余裕があるなら、1Kの部屋を与える方がトラブルは少ない。

- ・ 日本語能力の差

日本語能力に差があると、勉強の進行、業務の習得にも差が生じる。いかに日本語を習得させるかが大事。

- ・ 言葉の壁

そんなつもりで言ったのではないという、想いの行き違いは生じます。日本人は、言葉にしないけど空気を読む珍しい人たちと聞きました。きちんと伝えることは、本当に難しい。

わたしたちが感じる EPA介護福祉士候補者の受け入れ課題

- ・ 候補者間の情報共有

候補者間はSNSを通じて密な情報交換をしていると思います。他の施設を引き合いに出す可能性がある。

- ・ 生活環境について

部屋の使い方は定期的にチェックした方が良いでしょう。候補者によっては、思った以上に部屋が汚れていることもあります。

- ・ 勉強について

勉強へのモチベーションに差がある。勉強に遅れがある、苦手な候補者は早期に介入が必要。後で何ともなりません。

仕事時間の勉強は休息でなく、仕事だと思わせることは苦勞します。

わたしたちが感じる EPA介護福祉士候補者の受け入れ課題

- ・収入とモチベーション

夜勤を行うと収入も増加するので、候補者は夜勤を希望します。
しかし、本人の能力と実際に夜勤ができる能力には差があります。
夜勤ができるための日本語能力、業務習得をモチベーションにしました。

- ・信仰について

信仰については、個人差があります。
イスラム教で食事の制約があるので、食事会での配慮は必要。

- ・日本人職員との関係

研修、勉強時間と日本人よりも優遇されていると思います。
これをわかってもらえるよう、候補者へ説明する必要があります。

わたしたちが感じる EPA介護福祉士候補者の受け入れ課題

- ・ 候補者の目的は完全に同じではないかも

候補者の日本に来る目的は、個々で違うと思います。大前提は「介護福祉士」になることなんですが、その後、どうなりたいのかはよくわからない面があります。

- ・ 教える側にも課題

声掛けひとつとっても、マネから入ります。日本人の良くない対応でもそれでいいと思ってしまう。丁寧語で丁寧な対応が原則です。

- ・ 強さと弱さがアンバランス

外国に単身で暮らすには、勇気がいると思います。自分で生きる強さがあると思います。一方、気持ちが不安定で泣いてしまう、勉強が嫌でやらない、候補者間でもめる等、幼い部分もある。

わたしたちが感じる EPA介護福祉士候補者の受け入れ課題

- 自分たちの問題を自力で解決しようという力はある
同じ国の者同士で上手くいかない時は、自分たちで話し合うなどして解決しようという努力をします。同じ国の候補者が悪く思われると、今後の候補者へも影響するという心理が働いているかもしれません。
- 気持ちは変わる
ビデオクリップで日本での滞在年数希望は、長いほど良いと思うのですが、若者なので気持ちは変わると思います。結婚もしますし、家族の状況も変わります。
- 合格後が私たちの評価
合格後に働き続けてくれるかが私たちの評価です。候補者に丁寧な対応を行ったか、安心して生活できる環境だったかを候補者は見ていると思います。
- 私たちは選ばれる側
求人数を考えると、私たちは選ばれる状況です。さらに、合格後も選ばれる状況です。

おわりに

- ・ 日々新しい課題があるので、問題が出たら、その時相談しながら解決します。
- ・ 外国人、インドネシア人で一括りで考えないようにしています。候補者それぞれに個性があります。
- ・ 受験までの3年、同じ気持ちを持ち続けるのは大変なこと。挫折することもあると思います。合格させるのは本当に難しいです。
- ・ 候補者を受け入れている施設から、いろいろ教えてもらうこともあります。同じ悩みがあるので、少し安心します。

ご静聴ありがとうございました。